

テーマ：フルオロエノンの反応性を利用した新規合成中間体の創出

有機合成化学において、多機能性を備えた合成中間体は非常に有用である。例えば、プロスタグランジン類の合成に用いられてきたコーリーラクトンなど枚挙にいとまがない。このような中間体の1つに（交差共役）シクロヘキサジエノンが挙げられる。また、フルオロエノン構造を備えた基質も付加脱離反応により、多様な置換基導入が可能である。そこで、中間体（シクロヘキサジエノン）の多機能性に目を向けつつも、さらに興味深い機能性を見出すため、このシクロヘキサジエノンにフッ素原子を導入し、より高次元な反応性の創出に挑戦している。